

令和元年度学校教育懇談会(西地区)要点記録

日 時	令和元年 11 月 12 日 (火) 9 : 30～11 : 23	場 所	ひかりプラザ 203・204 号室
懇談会 概要	○開会 1 市長あいさつ 2 自己紹介 3 懇談 ・英語教育について(資料あり) 4 その他 ○閉会		
出席者 (順不同・ 敬称略)	[市長] 井澤 邦夫 [教育長] 古屋 真宏 [教育委員会委員] 富山 謙一(教育長職務代理者), 戸塚 晃, 佐久間 博美, 大木 桃代 [学校長] 茂呂 雅仁(第二小学校), 竹泉 稔(第五小学校), 畑 和男(第六小学校), 橋本 弥記(第八小学校), 鈴木 恒雄(第十小学校), 岡本 祐治(第三中学校), 花田 茂(第五中学校) [保護者] 原田 浩(第二小学校 PTA 会長), 岡田 光弘(第五小学校 PTA 会長), 八代 志穂(第 六小学校 PTA 会長), 中島 奈加子(第八小学校 PTA 会長), 藤田 佳奈(第三中学校 PTA 会長), 池田 友紀乃(第五中学校全体学年委員長) [事務局] 堀田 順也(教育部長) 日高 久善(教育総務課長), 富永 大優(学校指導課長), 大島 伸二(学校指導課統 括指導主事), 山田 隆史(教育総務課企画係長), 大嶽 みなみ(教育総務課企画係主 任)		

○ 開会

司会進行：古屋教育長

1 市長あいさつ

- ・学校教育懇談会では、毎回忌憚のない御意見を伺っている。貴重な機会であると思っている。
- ・英語はこれからのグローバル社会に必要なツールである。来年度から小学校で英語が教科化され、日本の英語教育は大きな転換期を迎える中で、家庭での協力も必要であるが、期待や不安が多くあると思う。不安や疑問をこの場でお話しいただき、少しでも解消できる場になればと考えている。

2 自己紹介

- ・全員が順に自己紹介を行った。

3 懇談

- ・今までの英語教育についての感想、これからの英語教育に対しての期待や不安に思うこと等について懇談を行っていきたい。

※主な意見を抜粋

○小学校の英語の授業について

- TGG（東京グローバルゲートウェイ。東京都英語村）は国分寺市からは遠く、帰ってきた子どもは疲れてそのまま眠ってしまった。子どもの感想は、「英単語が聞き取れたら話せるので、単語をより勉強したい。会話が全て英語だったので精神的に疲れた。」とのこと。
- 全ての国分寺市立小学校に通う5年生が、TGGに行くのは良いことだと思う。今後も続けてほしい。
- 家庭で英語を学んでいる子どもと学校で初めて学ぶ子どもがいる。授業は絵を使うなど工夫がされており、単語というより音や指折りで覚えていた。街で外国人に会ったときに学んだことが自然に出ると良い。日本語を覚える1・2年生のタイミングで英語を同じように学べると良いと思うので、その学年での英語の時間数が増えたら良いと思う。
- 低学年での英語の授業は、他の自治体と比較すると、現在の時間数でも充実している。
- 学習発表会での1年生の英語の発表は素晴らしかった。
- 授業が全て英語で進んでも、授業自体は成立する。日本語がなくても感覚で理解しているようだ。しかし、授業についていくことができない児童もいるため、しっかりと対応していかないといけない。

○中学校の英語の授業について

- スピーチテストの評価者にALT（アシスタントランゲージティーチャー（外国語指導助手））が入っていること、給食の時間にもALTと英語で自由に話せることが良いと思う。
- 型にはまった授業や生徒が受け身になる授業が多い。さらに生徒から引き出してほしい。
- 現在の授業では、1時間の中で様々なことを行い、英語で話をさせることを重視している。
- 学年が上がるにつれて授業のスピードにしっかりとついていっている。
- 英語の先生とALTとの打合せの時間が十分に取れていないのではないかと。
- 中学校で英語の授業についていけなくなってしまう子どもたちは存在すると思う。英語は文系・理系を問わず大学まで学び続けるため、そのような生徒がいることに先生が気付いてサポートしてほしい。
→それぞれの子どもに応じた指導は現在でも行っている。生徒の誰もが楽しく学べる授業がより一層先生に求められている。

○小学校から英語教育を開始したことによる中学生の変化について

- 今回の学力学習調査では、英語のスピーキングが導入された。数年後には、小学校から英語教育を行ったことの成果が表れ、英語で質問されて瞬発的に答える力が伸びていくのではないかと。

○英語を話すことについて

- 今の子どもたちのほうがパフォーマンステスト（ペーパーテスト以外の発表やグループでの話し合いなどのテスト）に勇気をもってできる。
- 英語ではなく気持ちを鍛えていくことが大切ではないかと。英語が得意でない子どもでも動じない子はALTに積極的に話していきける。
- 電車のアナウンスが英語で流れるなど、子どもたちの置かれている環境が英語に親しみやすくなっている。耳が英語に慣れていていると思う。

○英語教育の目的は、コミュニケーション能力の素地・基礎の育成だが、授業で工夫していることは何か。

- 様々なことを行っているが、発展途上である。例えば、まず、子どもたちに先生とALTとの英語の対話を見せて、次に子ども同士で対話させる場面は多い。しかし、相手からの質問がないまま回答を言うってしまうことが多い。
- 英語の授業を実際の生活に合った形で進めていくことが大事。例えば、小学校低学年ではお店を設定して買い物をする、固定学級であれば事務室に物を借りに行くなど。できるだけ他人とのコミュニケーションがスムーズに取れるような活動を進めている。

○先生について

- 研修を積むと授業が良くなっている。
- 若手の先生が英語を話すことを苦手としていない。あまり英語が話せない先生もALTとも積極的にコミュニケーションを取っている。
- 先生方がそれぞれ工夫して、子どもたちにとってより良い授業、より楽しい授業にしようとしていた。

○英語教育をさらに充実させるために期待すること、望むことについて

- ビジネス上では、読むこと・書くことのほうが、話す・聞くことよりも大切。読解を中心とした従来の授業も大切にしてほしい。
- 英語を嫌いにならないことが大切。英語は特別なものではないと思ってほしい。
- 英語はあくまでもツール。テクニックがあっても、自分の伝えたいことや伝えたいと思う気持ち、日本文化についての知識等の内面の豊かさがないと伝わらない。テクニックと中身の両方を学ぶことが必要ではないか。
- まずは、英語に慣れることが大切。小さい時から何度も繰り返し聞いているうちに少しずつ分かるようになるのではないか。一方で、論理的思考力や伝統文化などの経験も積んでほしい。英語の学びと内面の成長との両輪で成長してほしい。

○英語をよりよく用いるために必要なことについて

- 幼いころから英語を学ぶ前に、まずは日本語を学び、日本語で論理的に考える力、何かを想像する力、しっかりと考えることができる力を身に付けることが必要ではないか。
- 英語は中学校から始めても身に付くと思う。まずは日本語で言いたいことをはっきりと伝えること、相手の言っていることを正確に理解して、言うべきことは言う訓練をしたうえで英語を身に付けることが大切。
- 日本語でのコミュニケーション能力も高めてほしい。
- 内気であまり話せないから、語学教育も必要だが、人と人との会話が常にある環境にしておくことが大事なのではないか。
- 英語を使うときに、どのようにすれば伝わるか、何を伝えたいかを自分で考えることが必要。

○市長がまとめとして発言

- 国分寺市の外国人人口は2,000人を超えた。日本の人口減少に伴い、日本に住む外国人が増加するのは必然的である。このような環境の中で、子どもたちが英語や外国人を嫌いにならないようにしたい。子どもたちが外国人と交流するイベントに参加することで、親しみを持つきっかけになるのではないか。
- 英単語をつなげて話すだけでも英語は通じるという経験をすることで、英語への苦手意識もなくなるのではないか。
- 日本と外国では、文化や考えの組立て方が異なることを理解していくことが必要。語学のみを学ぶだけでは国際社会についていけない。当たり前だが、日本語の教育も必要。
- 学校だけではなく家庭でも英語を使う機会を作してほしい。多くの方々の協力で子どもたちが世界のどこでも通用するようにしたい。
- 様々な取組を教育委員会と連携しながら行っていきたい。

以上